

平成 2 1 年度第 1 回尼崎市保健所運営協議会報告書

- 1 と き 平成 2 1 年 1 0 月 9 日 (金) 午後 1 時 3 0 分から 3 時まで
- 2 と ころ 尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール
- 3 出席者 (委員 1 1 名)
橋本会長、重岡副会長、奥田委員、佐藤委員、白川委員、田中委員、萩原委員、藤原委員、三宅委員、宮崎委員、村上委員
(事務局 2 2 名)
大橋医務監、俵参与、郷司参与、鈴井参与、坂本課長、船越課長、後藤課長、鈴木課長、堀池所長、榎並課長補佐、岡田課長補佐、林課長補佐、轟課長補佐、來住係長、高井係長、鈴係長、石井係長、西田係長、吉田係長、大平係長、栗村主任、坂本主事

4 議事録

- (1) 開会
(2) 辞令交付
(3) 尼崎市保健所長あいさつ
(4) 委員・事務局紹介
(5) 会長・副会長選出
(6) 会長・副会長あいさつ
(7) 協議事項

質 疑 応 答	
【議題 1】	平成 2 1 年度尼崎市保健所事業について
事務局	(平成 2 1 年度尼崎市保健所事業について資料に基づいて説明)
議長	以上で事務局の説明は終わりました。何かご意見、ご質問はありませんか。
議長	がん検診について、今年度、国の方から無料でできるという対策ができていると思うが、それに対して保健所の取り組みはいかがか。それに伴い受診者も増えていると思うが。
事務局	国が 5 月 2 9 日の補正予算の関係で、子宮がんと乳がんの無料クーポン券を各市町で配布してくださいということを決定した。子宮がん検診については 2 0 歳の方からが対象であるが、2 0 歳、2 5 歳、3 0 歳、3 5 歳、4 0 歳の誕生日を迎える方に対してクーポン券を配り、このクーポン券を持って産婦人科へ行くと、自己負担がゼロで検診を受けていただける。乳がん検診についても同様にクーポン券を配布しているが、こちらについては、4 0 歳、4 5 歳、5 0 歳、5 5 歳、6 0 歳、6 5 歳が対象である。尼崎市の場合、両方で 1 万 6 千人程度対象者がおり、6

議長	<p>月30日の時点で住民票が尼崎市にある方が対象となる。外国人登録の方も含んでいる。対象者について名簿を作成し発送の準備を行い、本市の場合、8月24日から発送し、9月1日から受診していただけるようにした。まだ9月分の実績は出ていないが、乳がん検診の場合、毎月150から200件の受診があると報告がある。9月分については医師会へ確認したところによると350件程度の受診があるということなので、今後どんどん受診していただきたく、医師会にもご協力いただき広報活動を行っていきたくと考えている。</p> <p>来年の3月まであと半年ということで、特に10月はピンクリボン運動という乳がんの検診を促進する運動の強化月間となっている。様々なところでピンクリボンのポスターや表示が出ていると思うが、乳がんは異常な勢いで増加しているので、該当の年齢の方以外もどんどん受診していただくようにしたいと思っている。</p>
委員	<p>がん検診に関する発見率について。歯科医師会は 口腔がん検診を充実させていく必要があるということを考えている。今話にあったように、口腔がんも欧米各国では減少傾向にあるのに、日本はなぜか倍々ペースで増えているという事実もある。そういうことがあるので、そういう取り組みも組織としてしていかなければならないし、いずれはこのように行政にもご協力いただいてやる形が望ましい関係だと思うが、そのためには、このようながん検診を自治体で行って、だいたいどれくらいの発見率があるのか、ざっとでいいので教えていただきたい。</p>
事務局	<p>まずは受診率について、残念ながら尼崎市は兵庫県、阪神間でもがん検診の受診率は低い。平成20年度の実績であるが、胃がん検診は2.7%、大腸がん検診は9.5%、肺がん検診は7.9%、子宮がん検診は3.7%、乳がん検診は4.4%ととても低い受診率となっている。受診率、受診者数を増加させるためにいろいろ手を尽くしているが、なかなか受診率が伸びないのが現状である。発見率について、昨年度、胃がん検診は3,039名が受診し、7名にがんが見つかり、発見率は0.23%となっている。大腸がん検診は10,700名が受診し、現在分かっているところで21名にがんが見つかり、発見率は0.20%となっている。肺がん検診は8,903名が受診し、18名にがんが見つかり、発見率は0.20%となっている。子宮がん検診は1,948名が受診し、2名にがんが見つかり、発見率は0.10%となっている。乳がん検診は1,666名が受診し、2名 にがんが見つかり、発見率は0.12%となっている。</p>
議長	<p>胃がんの傾向が非常に増えていると思う。行政としてのキャンペーンが少し不足しているという感がある。やはりがん検診という自分で行</p>

	<p>きたいとは思わない方が多いし、これだけがんが広がってくると市民の皆さんにアピールしなければなかなか検診の受診率は上がらないと思う。重岡委員が言われた口腔がんについて、口腔ケアは非常に重要である。寝たきり老人、独居の老人の比率が尼崎は多いと聞いている。その辺のところの掘り起こしというか常々の監視というか、そういうところの活動が非常に大切であると思うし、日頃の活動はいろいろあると思う。高齢者は弱ってしまってどこにも出て行かなくなると一気に衰弱し、その時点で地域の方が助けに来て病院に搬送されるというケースが非常に多い。栄養に関してもそうであり、徐々に栄養状態が低下するので、早い時点で栄養管理や口腔ケアを充実していくシステムを作っていただきたい。</p>
委員	<p>高齢者を対象に、栄養指導を地域の方に呼びかけて行っているが、なかなか集まらない。また、統廃合によって場所が狭くなり、多くの方が十分に入れない。公民館を使用していると言われ、声掛けをして一緒に調理実習をし、一人暮らしの方にも簡単にできる料理を指導しているが、なかなか集まらない。特に男性が集まらない。女性はわりと熱心だが、男性は一人暮らしでお酒におぼれてという方もいるが、声掛けが難しい。分かっているが、個人情報保護の関係もあり、自宅まで行って「お酒をやめて」とか「こういう組織に入ったら」というのは言いづらい。できるだけ男性がたくさんこういう組織に入っていたらありがたいと思う。</p>
議長	<p>行政によるバックアップもお願いしたいと思う。</p>
【議題 2】	新型インフルエンザの現状と今後の対応について
事務局	<p>(新型インフルエンザの現状と今後の対応について資料に基づいて説明)</p>
議長	<p>以上で説明は終わりました。これまでの説明でご意見、ご質問はありませんか。</p>
議長	<p>新型インフルエンザの予防接種について、医療従事者は再来週から接種が始まる。それに続いて、重症化の恐れのあるハイリスクの方、妊婦の方と続くわけだが、季節性のインフルエンザの予防接種も始まっている。両方打っても大丈夫なのか。</p>
事務局	<p>同時接種については主治医の先生に相談してくださいということを行っているが、基本的には季節性インフルエンザはワクチンを打って1週間したら新型のインフルエンザワクチンを打てる。新型インフルエンザワクチンを2回打つ場合にしても、1週間で次が打てるが、1番効果的</p>

	<p>なのは4週間で打ってくださいというのが製薬会社と厚労省からの説明である。</p>
<p>委員</p>	<p>季節性のものと新型のものと、1回打つとその効果期間はどれくらいであるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>だいたいのワクチンというものは、2回打って5ヶ月くらい効くだろうというのが製薬会社の見解である。</p>
<p>委員</p>	<p>前は前回、今回は今回というふうに行くということか。何歳以上は何回というのはあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回のワクチンについては、WHOという海外の治験においては、9歳未満の方に関しては2回接種した方が確実だということが出ているが、日本においては、今から臨床実験を進める中で、大人は1回接種でいいのかどうかということを検討し、12月の中旬頃に報告される予定である。</p>
<p>委員</p>	<p>予防接種は、市内ではできるようになるのか。接種に行ったが無いと言われることにはならないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>優先順位の方から接種していくので、その方たちの予約を受けながら県から配布がある。最終的には無いということはないと思うが、10月に発送されるワクチンの量が、約96万人分しかないということがあり、それを各都道府県に分けていくので、少しずつ順序にそってということになるので、待っていただくこともありうると思う。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>市内では新型インフルエンザ患者が何人くらい発生しているのか。 5月に市内で初めて患者が確認されたときから7月23日までは、インフルエンザ患者が出るたびにPCR検査を行い、新型インフルエンザの確定検査を行っていたので、52名までは把握している。その後は、集団の中で1名か2名だけ検査を行うということになったので、集団としてどれくらいの数に感染していたかということしか分からない。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>月ごとの患者数データのようなものは保健所にはないのか。 集団感染の集団数や、その集団の中に含まれていた人数は分かるが、集団に含まれていない患者の数に関しては届出を出すことにはなっていないので、全体的な数は把握できていない。</p>
<p>委員</p>	<p>集約する場合は、各病院、個人の医院、そういったところのデータでも全部入ってくるのか。全体的なデータを集約しているだけなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今はもうインフルエンザの定点のみで把握している。</p>
<p>委員</p>	<p>数字をつかむために、インフルエンザにかかったら各医療機関から保健所のほうに連絡がある等のシステムにはなっていないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>なっていない。インフルエンザ定点で、定点を見ることによって全体</p>

委員	<p>的な数を把握することになっている。</p> <p>インフルエンザは特殊であるから各医療機関から患者があったということ報告してもらい、それを集約して対応するということが必要ではないか。また、新型インフルエンザ発生当初は「市内で人が集まるところは意識しましょう」とか広報があったが、今はそういうことはないのか。</p>
事務局	<p>今は季節性インフルエンザと同程度のことで、「せきエチケットを守りましょう」であったり、「症状のある方はマスクをしてください」ということをお知らせしている。</p>
委員	<p>当初はマスクを使用している人がすごく多かった。今はもっと患者数が多いにも関わらず、マスクをしている人が少ない感じがする。それだけ皆さんの意識が高まっていないという気がする。何月ごろがピークであるにとらえればよいのか。</p>
事務局	<p>1回目のピークは10月末くらいだと思うが、どれくらいの感染者になるのかは、あくまでも患者の発生状況が注意報レベルとなってから4週間目にピークになるというデータの推計ができるので、推計としての数となる。</p>
委員	<p>このインフルエンザというのは全国的だから、厚労省から予算が下りてくるといことはあるのか。</p>
事務局	<p>一部ある。いろいろな対策を組んで、それぞれついているものもあるし、ついていないものもある。</p>
委員	<p>助成というものが欲しいところである。</p>
事務局	<p>今回のワクチンについては国のいろいろな補助はついているが、全員というわけにはいかない。</p>
委員	<p>10月から医療従事者の接種が始まるが、我々高齢者はピークを過ぎたの接種となり、また予防接種の効果がでるまでに4週間かかるのであれば遅いのではないか。</p>
事務局	<p>恐らくこの計画は前倒しになってくると思うが、確かに1回目のピークには皆間に合わない状態になってくる。今回のインフルエンザに関しては、人によっては症状が軽いということもあり、タミフルを飲まずに治っている方もたくさんいる。そういう意味では、異常な危機感を持たずに、できる限りの対応をしていただければよい。マスクについては、初めの頃は行政からマスクをするよう指示があったと思うが、今回、厚生労働省では「せきエチケットを守りましょう」とか「症状がある人はマスクをしましょう」ということなので皆がマスクをするということではないと思う。</p>

議長	マスコミ報道では国民の恐怖ばかりあおって、それであのような現象になったような気がする。
委員	患者はどこへ行ったらよいか分からない。頼るところは保健所である。そこから指導を得て、的確に指導してもらったら安心できると思う。
事務局	医師会の先生方とは連携をとりながら半年間やってきている。
委員	その辺のことはお願いしたい。
委員	新型インフルエンザワクチンのQ & Aが徹底されればよいと思うが、これを知らせる方法はあるのか。
事務局	ホームページや市報にも載せている。各団体、優先接種対象者の方がおられるような施設に対しても、広報を図っていこうと思っている。
議長	新型のワクチン接種に関して、医療機関だけの問題というのではなく、保健所で新型インフルエンザのワクチン接種を行っていただけないか。
事務局	一般の方に接種してくださる医療機関の数について、13日に医師会の方から報告いただく予定となっている。市民の方が皆不自由なく受けられるだけ医療機関があるか、それがなければワクチンの集団接種についても考えていこうと思っている。
議長	医療関係者のみ、入院患者まで、外来患者まで、一般の方までの4分類あり、一般の方まで入れると非常に大きな混乱が起こると思うので、恐らく多くの医療機関で接種できないと思う。従って、やはり保健所での集団接種が必要になってくると思う。
委員	国内産のワクチンと輸入のワクチンでは製法が違うというのを聞いたが、1月以降に接種する人は輸入ワクチンで副作用はないのか。
事務局	輸入ワクチンについては厚生労働省が臨床検査をしているところであるが、基本的には海外で使われているものを使うということで検査しているもので、全く今まで使ったことのないものというわけではない。製法でいうと国産のものは卵白に入れて作っているところを、培養細胞によって作らせているところが異なり、またもう1つは、アジュバントといって、免疫効果を高めるような薬が入っている。副作用としては、局所反応があり、赤く腫れるというのがあると聞いている。それから、1番心配されていたのは、悪性腫瘍が打った場所にできるというのが懸念されていたが、それについては今まで打たれた方で悪性腫瘍がでたという報告は無いので、1番恐れられていて1番大きな副作用である悪性腫瘍についてはないと思われる。1番多いと思われるのは、局所反応であり、注射した日にちょっと腫れるとか、熱が出るとか、それは普通の予防接種でも起こることであるが、そういうことが懸念されている。ただし、これは2回接種するときのスケジュールであり、1回になった

	<p>らかなり前倒しで、年内に国内産のワクチンを接種できるようになるかもしれない。</p>
<p>議長</p>	<p>ワクチン接種に伴う副作用が出たときの補償というのは、従来のワクチンと同じように出るのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>季節性インフルエンザが定期の予防接種の2類疾病に指定されており、そのワクチンと同じ形で補償しようということで、国が法的に認めている。</p>
<p>議長</p>	<p>他に質問等がなければ、本日の協議は終了させていただきます。みなさまのご協力、ありがとうございました。</p>

(8) 閉会